

# 千利狸の呟き

## ～ 51万8000人のネット依存 ～

山 狸

2013年8月に発表された厚生労働省の実態調査の結果より、中高生の8.1%、51万8000人がネット依存と結果が出た。(ヨーロッパの平均15歳では、4.5%)

現在の当国では、ネット関連(ネットゲーム、ソーシャルネットワーキングサービス：SNS、ラインに代表されるコミュニケーションツールなど)は無法地帯となっている。

特にスマートフォン：スマホは、「持ち歩けるパソコン」であり、その大流行が、子育てや中高生にも影響が出てきている。

また、ネットは犯罪へのツールとしての道も開かれてしまう。サイバー犯罪(不正請求の詐欺、出会い系のトラブル等)、人間関係(いじめ、なりすまし、24時間続く人間関係のストレス等)、情報発信のトラブル(個人情報流出、著作権侵害、名誉毀損、肖像権侵害、店舗の冷蔵庫に寝るなどバカッター事件)が起こっている。

広島県呉市の少女殺害事件では、グループチャット：グルチャが夜中に盛り上がり、ネットでつながっていたグループが犯罪を起こした。

川崎の中学生もラインで夜10時に連絡をとり、外出し殺された。

ある中学生は、午前2時までラインをやって、部活動は低迷、成績は急落。自分の事が書き込まれないか気になり、送られてきたコメントを無視していると思われたくなくて、常にスマホを持ち、食事中も返信する。

当地区でも、中高生のラインはずしのいじめや誹謗中傷などがあると聞いている。

「ネットに奪われる子供たち：NPO法人子供とメディア、清川輝基編」によると、メディア・ネット依存の7パターンは1)電子ゲーム依存、2)コンテンツ依存、3)コミュニケーション依存、4)乳幼児のタッチパネル依存、5)機能、技術への執着、6)不登校引きこもりとメディア依存、7)障害などが関係しているメディア依存とある。

すでに、ネット依存・中毒症先進国がある。それは、となりの韓国。

韓国は、1997年のIT産業振興からネットゲームがヒットし、PC房(ピーシーバン)というネットカフェが起り、家出が社会問題となり、2001年にその深夜利用に年齢制限が実施された。しかし、2002年には無職の24歳男性が86時間ネットゲームをやり、ロングフライト症候群(エコノミー症候群)の肺動脈塞栓症で亡くなった。また、18歳の徴兵検査でネット中毒が原因で不合格になる若者が続出した。

韓国では教育・受験戦争が厳しいのでTVの制限はあるものの、eラーニングが普及しそのタブレット端末からネットゲームの世界にはまっていた。2004年の全国調査でネット中毒の成人は8.9%、169万、青少年で20.3%、154万人という結果であった。その報告を受けて対策が行われ、2012年に青少年で10.7%、成人は6.0%に減少している。例えば2011年11月より16歳未満は、夜0時～朝6時まではネットにアクセスできないというシンデレラ法を制定している。(国民総番号制なので、可能のようだ。)中高生にも選択的シャットダウン制度がある。さらに次の段階として、相談、治療体制が確立されている。「ネット中毒専門相談士」がいて、11泊12日の「ネットRESCUEスクール」がある。

しかし、スマホの普及により、青少年で18.4%(全体は11.1%)がスマホ依存という調査結果がでた。

和田秀樹著「スマホで馬鹿になる。」によると、当国のマスコミは広告主の影響を受けるため、ギャンブル：パチンコ、アルコール、スマホの依存の危険性を警鐘することはない。政府も税金の関係上か積極性が見えない。スマホ依存症は、治療が難しい。しかも、スマホ依存症の1～2割は、社会で仕事ができない状態になると予測している。

カリスマと言われた小児外科医が半生をかけて1万人を救っても、スマホはその5倍以上の5～10万人の病人をあっさり作り出してしまうのである。

これって、何かマズイ!